

2018年春学期の全時間訓練のための
メッセージアウトライン

主題：キリストのからだとしての召会を建造するために、
キリストの豊楽を享受する

メッセージ 3

主の願いは、キリストのからだとしての召会を建造するために
わたしたちが彼を享受することである

聖書・創2:7-9. 詩27:4. 36:8-9. 43:4. 51:12. イザヤ61:10. エレミヤ15:16. ピリピ4:11-13

- I. 主はご自身を低くして、わたしたちの享受となりました。彼はわたしたちであるのと同じになりました。それはわたしたちが彼を享受して、彼であるのと同じになるためです——ピリピ2:8-11. 参照、Ⅱコリント5:21：
- A. 彼は高く高尚であり、栄光と聖の主ですが、彼はまた彼ご自身をわたしたちの中へと分与することを愛し、わたしたちを彼に引き寄せることを欲しています。彼はわたしたちの享受のために、ご自身をわたしたちがあずかることのできる方としました。それによって、わたしたちは彼を受け入れ、彼を獲得し、彼をわたしたちのすべてとして経験することができます——詩43:4. Ⅰコリント15:45後半. ヤコブ4:7-8前半。
- B. 雅歌におけるロマンスは、キリストを追い求める者が経過して、シュラムの女、ソロモンの複製、また新エルサレムのしるしとなる過程を描写しています——1:1 (フットノート1, 回復訳). 6:13。
- Ⅱ. 主はわたしたちの享受のためのわたしたちの命です——創2:7-9. 啓22:2, 14. ヨハネ14:6前半. 10:10. Ⅰコリント15:45後半. コロサイ3:4：
- A. 神の命はキリストの命であり、キリストの命はわたしたちの命となりました——ヨハネ5:26. コロサイ3:4：
1. キリストがわたしたちの命となるのが意味するのは、彼がわたしたちにとって極みまで主観的であるということです——ヨハネ1:4. 14:6前半. 10:10後半. Ⅰコリント15:45後半. ローマ8:10, 6, 11。
 2. 信者たちの命としてのキリストには、天然の命と区別する三つの特徴があります：
 - a. この命は、十字架につけられた命です——ガラテヤ2:20。
 - b. この命は、復活の命です——ヨハネ11:25。
 - c. この命は、神の中に隠された命です——コロサイ3:3. マタイ6:1-6, 16-18。
- B. キリストがわたしたちの命であるということは、わたしたちが彼を命とし、彼によって生きるべきであること、またわたしたちが日常生活の中で彼を生きるべきであることの力強いしるしです——コロサイ3:4前半：
1. キリストは实际的、また経験的な方法でわたしたちの命とならなければなりません。わたしたちは日ごとに彼の命の中で救われる必要があります。それは神聖な

命の中で王として支配することです——4節。Iコリント 15:45 後半。ローマ 5:10, 17。

2. 新しい人は、わたしたちがキリストをわたしたちの命とし、彼を生きることの自然な結果です——コロサイ 3:3-4, 10-11. エペソ 2:15. 4:22-24。
- C. わたしたちがクリスチャン生活において前進して円熟に至るなら、わたしたちは救いの喜びから召会の喜び、からだの喜び、ついには一人の新しい人の喜びへと前進します。
- D. 無限の神としてのキリストがわたしたちの中へと入り、わたしたちの内側で最高の命となるとき、わたしたちは無限に高い標準の人たちとなります——ルカ 6:35. ダニエル 3:26 :
 1. わたしたちは、どの人も所有していない高潔と聖を所有します。
 2. 命としてのキリストをも持つ人は高い人、無制限の人です。彼は最高の命を持っており、それは計り知れないほど高い神ご自身です——参照、ピリピ 1:19-21。
 3. 命の霊としてのキリストは聖なる息であるので(ヨハネ 20:22)、わたしたちはどこにいても、いつでも(哀 3:55-56. Iコリント 1:2. Iテサロニケ 5:17)、わたしたちの享受のために彼にあずかることができます。主を呼び求めることは霊的な呼吸です。

III. 主はわたしたちの享受のためのわたしたちの夫です :

- A. 聖書は命で始まり、命で終わります。命の後に語られている第二の事は結婚です。アダムがエバと結婚したように、神の小羊としてのキリストは、彼の贖われた民と結婚します——啓 21:2, 9。
- B. 神の小羊 (ヨハネ 1:29)は花婿であり、わたしたちを彼の花嫁にしつつあります(3:29. エペソ 5:25-27)。
- C. わたしたちが主に結合されることは (Iコリント 6:17) 、妻が夫に結合されることと同じです (イザヤ 54:5. 62:5. IIコリント 11:2)。
- D. キリストはわたしたちの夫であるので、わたしたちは自分自身をささげて彼を愛する必要があります。このように有効で、このように安全で、このように豊かで、このように享受に満ちた道は他にありません。わたしたちが彼を愛するとき、彼はわたしたちの満足であり、わたしたちは彼の満足であり、わたしたちは天の務めにおいて彼と協力して、彼の民を養い、牧養します——ヨハネ 14:21, 23. 21:15-17. 参照、ヘブル 13:20. Iペテロ 2:25. 5:4。

IV. 主はわたしたちの享受のための食物また飲み物です :

- A. キリストは、彼の選びの民を養うために天から下って来たマナの実体です。彼は命のパン、また生けるパンであり、わたしたちが彼を食べ、彼のゆえに生きるために天から下って来ました——出 16:14-18. ヨハネ 6:31-35, 48-51, 57, 63, 67-68。
- B. 荒野にある霊の岩はキリストを予表し、彼は神によって打たれ、裂かれて、命の水を流し出し(出 17:6. ヨハネ 19:34)、彼の信者の渇きを満たしました。裂かれた岩から流れ出した生ける水はその霊を予表し、彼は十字架につけられ、復活したキリストから流れ出て、わたしたちのすべてを含む飲み物となります(7:37-38. Iコリント 12:13)。

C. 主の食卓において、主はパンに関して言われました、「取って食べなさい、これはわたしの体である」(マタイ 26:26)。それから杯に関して、彼はまた言われました、「みな、それから飲みなさい。これは、多くの人に罪の赦しを得させるために、注ぎ出されるわたしの契約の血である」(27-28 節)。

1. 主は次のように言っているかのようでした、「あなたはわたしをあなたの享受として取り入れなければならない。真にわたしを記念することは、わたしを享受することである」。
2. 彼は言っていたかのようです、「あなたがわたしをあなたの食物また飲み物とならせる時、あなたはわたしを記念しているのである。わたしはあなたの中へと入り、あなたのすべてとなることを切望している」——参照、詩 36:8-9。

V. 主はわたしたちの享受のためのわたしたちの住まいです：

- A. 「主よ、あなたはすべての世代にわたって、わたしたちの住まいです」。神をわたしたちの住居、わたしたちの永遠の住まいとすることは、神に対する最高の、最も満ち満ちた経験です—— 90:1。
- B. 「いと高き方の隠れ場の中に住む者は、全能者の陰に宿っている」—— 91:1。
- C. わたしたちは主の住まいであり、彼はわたしたちの住まいです。ですから、聖書は、わたしたちは彼の中に住み、彼はわたしたちの中に住むと言っています——ヨハネ 15:4. 参照、エペソ 2:21-22。
- D. わたしたちは彼の中に住むとき、彼であるすべてを享受します。彼はわたしたちの中に住むとき、わたしたちであるすべてを享受します——ヨハネ 15:4. 8:31. 15:7。

VI. 主はわたしたちの享受のためのわたしたちの命の光です：

- A. 「わたしは世の光である。わたしに従う者は、決して暗やみの中を歩くことがなく、命の光を持つ」—— 8:12。
- B. 「神は光であって、神の中には少しの暗やみもありません」—— I ヨハネ 1:5。
- C. このことが意味するのは、彼から離れては、あるいは彼から切断されては、わたしたちは暗やみの中にいるということです。光は神の臨在です。

VII. 主はわたしたちの享受のためのわたしたちの力、愛、喜び、慰め、導きです：

- A. 「エホバ、わが力よ、わたしはあなたを愛します。エホバはわが巖、わがとりで、わが解放者。わが神、わが岩、わたしは彼の中に避け所を得る。わが盾、わが救いの角、わが高きやぐら」——詩 18:1-2. 参照、創 15:7。
- B. 神は愛です(I ヨハネ 4:8)。彼はまたわたしたちの喜び、慰めです(ネヘミヤ 8:10. イザヤ 51:12)。彼であるものはわたしたちのあらゆる必要を満たします。
- C. わたしたちは彼に触れるとき、導きと方向を持ち、進むための道を持ちます。わたしたちは神の霊によって導かれ、神の臨在をわたしたちの旅のための地図とすることができます——ローマ 8:14. ヘブル 11:8。

VIII. 実を結ぶことは、主を享受することです：

- A. 実を結ぶ木の枝は、多くの実を結ぶかもしれませんが、どの実も枝の働きの結果ではありません。枝はただ樹液、すなわち木の豊富を吸収し、実は生み出され、生長します。
- B. 神聖なぶどうの木枝であることと、実を結んで神聖な命を表現することは、喜び

の事柄であり、これはまた喜ばしい生活です——ヨハネ 15:11。

- C. ピリピ人への手紙はキリストに対する経験と享受についてです。その結果は喜びであり、わたしたちはキリストを生きて、わたしたちの周りの人たちに対して彼を大きく表現します。この書は喜びと歓喜で満ちている書です—— 1:4, 18, 25. 2:17-18, 28-29. 3:1. 4:1, 4. 参照、レビ 1:1。

IX. 祈りは主を享受することです：

- A. わたしたちは主を享受したいなら、わたしたちの内なる存在に向きを変えるべきです。なぜなら、彼はわたしたちの内側におられるからです——コロサイ 1:27. II テモテ 4:22. ローマ 8:6。
- B. 最高の祈りは、主を吸収する祈りです——コロサイ 2:7：
1. 祈りは、わたしたちがどれほど多くの言葉を発するかとは無関係です。それは静かな時間を見つけて、わたしたちの忙しい心を内なる奥の間に向け、神と交わり、わたしたちの霊の中で彼の存在そのものを吸収するという事柄です。——参照、ルカ 10:38-42。
 2. このようにして、神はわたしたちの中に住み、わたしたちのすべてとなります。それから、わたしたちは、彼がわたしたちのすべてであること、また彼が、何であれわたしたちが必要とすることに答えてくださることを認識することができます。これがクリスチャンであることの意義です。
- C. わたしたちは、祈りのために十分な時間を取っておく必要があります。それはわたしたちがすべてを含む地としてのキリストのさらなる豊富を吸収することができるようにします——コロサイ 1:12. 2:6-7. 4:2：
1. わたしたちは時間を費やして主を吸収し、確かな、また有効な方法で彼と接触する必要があります——ルカ 8:13. マタイ 14:22-23. 6:6。
 2. 朝に神と出会うことは、その日の早いうちに彼に出会うということだけではありません。それはまた、光に満ちた状況の中で神と出会うことです。わたしたちは、わたしたちを妨げたり占有したりするどのような人、事、物も持たず、ただ神だけに行くべきです。——箴 4:18. 出 33:11 前半. 34:3-4. マルコ 1:35。
 3. わたしたちが祈り、恵みの御座へと進み出るとき、恵みはわたしたちの内を流れる川となり、わたしたちを供給します——ヘブル 4:16. 参照、啓 22:1。
- D. 神の側に立ってサタンと戦うために、わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります——コロサイ 4:2. ダニエル 6:10：
1. 神の側につく人たちとして、わたしたちは、墮落した全宇宙がわたしたちに敵対しており、特にわたしたちの祈りに敵対していることを見いだします。祈りに対する抵抗はわたしたちの外側にあるだけでなく、わたしたちの内側にさえあります——マタイ 26:41。
 2. 祈ることは、墮落した宇宙の中の流れ、傾向に逆らうことです——ルカ 18:1-8。
- E. わたしたちは祈りのために明確な時間を取っておく必要があります。わたしたちの態度は、祈りがわたしたちの最も重要な事柄であり、また何にもそれを妨げさせるべきではないというものであるべきです——ダニエル 6:10. 使徒 12:5, 12。
- F. わたしたちは、絶えずわたしたちの霊を活用することによって、祈りの雰囲気の中

にとどまる必要があります——エペソ 6:18. I テモテ 4:7. II テモテ 1:7. コロサイ 1:3, 9:

1. わたしたちは絶えず祈り、うまずたゆまず祈り、自分自身を密接に主に結び付ける必要があります——I テサロニケ 5:17. マタイ 26:41. コロサイ 2:19。
2. 最も小さい詳細な点においてできえ、わたしたちは主に尋ね求める必要があります。これを行なうことは、うまずたゆまず祈ることであり、またそれによってキリストを生きることです——参照、ヨシュア 9:14. ペリピ 4:6-8。

X. 言葉を供給し、福音を宣べ伝えることは、主を享受することです：

- A. 神の言葉を供給し、他の人たちに福音を宣べ伝えることは、神の恵みの執事職を成就します。恵みは、神がキリストの中でその霊としてわたしたちの享受のためであることです——エペソ 3:2。
- B. 神の言葉を供給し、福音を宣べ伝えるための第一の必要条件是、主を極みまで愛することです——雅 1:4。
- C. 「わたしたちは、祈りと言の務めを堅く持ち続けることにしましょう」——使徒 6:4：
 1. 祈ることは、主に彼の行動のための事を行なうてくださるよう懇願することだけでなく、わたしたちの霊を活用し、強めることでもあります。
 2. このゆえに、祈りは、使徒たちが実行したように、言葉の務めに先立つべきです。そのような祈りがなくては、言葉の務めは活気づけられず、力づけられないでしょう。
- D. 言葉を供給するため、また福音を宣べ伝えるために、わたしたちは祈りによって神の言葉を吸い込み、預言することによって神の言葉を他の人たちの中へと吐き出さなければなりません。これが祈り、研究し、暗唱し、預言することの本質です——II テモテ 3:16。
- E. わたしたちは福音を宣べ伝えたいなら、まず三十分、あるいは一時間を費やして主と接触し、彼の栄光を見つめ、彼と交わり、彼を賛美すべきです。
 1. 主を吸収し、彼で満たされた後、わたしたちが人々と接触するときに、語るのはわたしたちではありません。そうではなく、わたしたちが吸収した主がわたしたちを通して語ります。
 2. わたしたちが語る言葉はわたしたちが吸収したまさにその主であり、人々が祝福されないことは不可能です——参照、出 33:11. 34:29, 35。

XI. 導きを受け入れることは、主を享受することです：

- A. 主の導きを受け入れるために、わたしたちはすべてのことについて忘れて、単純に主と接触し、彼を吸収し、彼を享受すべきです。わたしたちは彼を吸収し、彼を享受するなら、彼の臨在を持ちます。それが彼の導きです。
- B. わたしたちは彼の臨在を持たない限り、彼の導きを持ちません。神の臨在を伴う雲の柱と火の柱がイスラエルの子たちを導いたように、神の臨在としての主なる霊は、クリスチャンレースを走るようにわたしたちを導きます——13:21-22. 14:19-20。
- C. あらゆることは、わたしたちが神の臨在を持っているかどうかにかかっています。彼の臨在があれば、あらゆることは正しく、彼の臨在がなければ、あらゆることは間違っています。

XII. 召会生活のためのクリスチャン生活の秘訣は、主を享受することです：

- A. 神のただ一つの願いは、彼ご自身をわたしたちに与えて、わたしたちの享受となることです——参照、詩 36:8-9. 16:11. エレミヤ 15:16. 詩 51:12. イザヤ 61:10。
- B. クリスチャン生活の秘訣は、わたしたちが彼のためにどれほど行なったかや、わたしたちが彼のためにどれほど働いたかではなく、わたしたちが彼をどれほど享受したかです。わたしたちはこの秘訣を学ばなければなりません——ピリピ 4:11-13。
- C. わたしたちの環境が何であるかにかかわらず、わたしたちは単純に主の美しさを見つめ、何度も彼を享受し、吸収すべきです(詩 27:4. IIコリント 3:18)。わたしたちはこのことを行なうなら、神で満たされ、わたしたちの顔は光り輝くでしょう。わたしたちは主の臨在に満ちるでしょう。これは何という栄光でしょう！

© 2018 Living Stream Ministry